

7. 緑のカルテ

7.1 全域カルテ

(1) 調査結果の総括

＜緑の分布状況＞

緑被は、北西部で多く、南東部に少ない。

① 主な緑被地のある所

区西部の台地上：桐ヶ丘中央公園、大規模集合住宅、赤羽自然観察公園、中央公園、都立旧古河庭園等

区北東～東部の低地：荒川河川敷等

区中央を通る崖地周辺：名主の滝公園、飛鳥山公園等

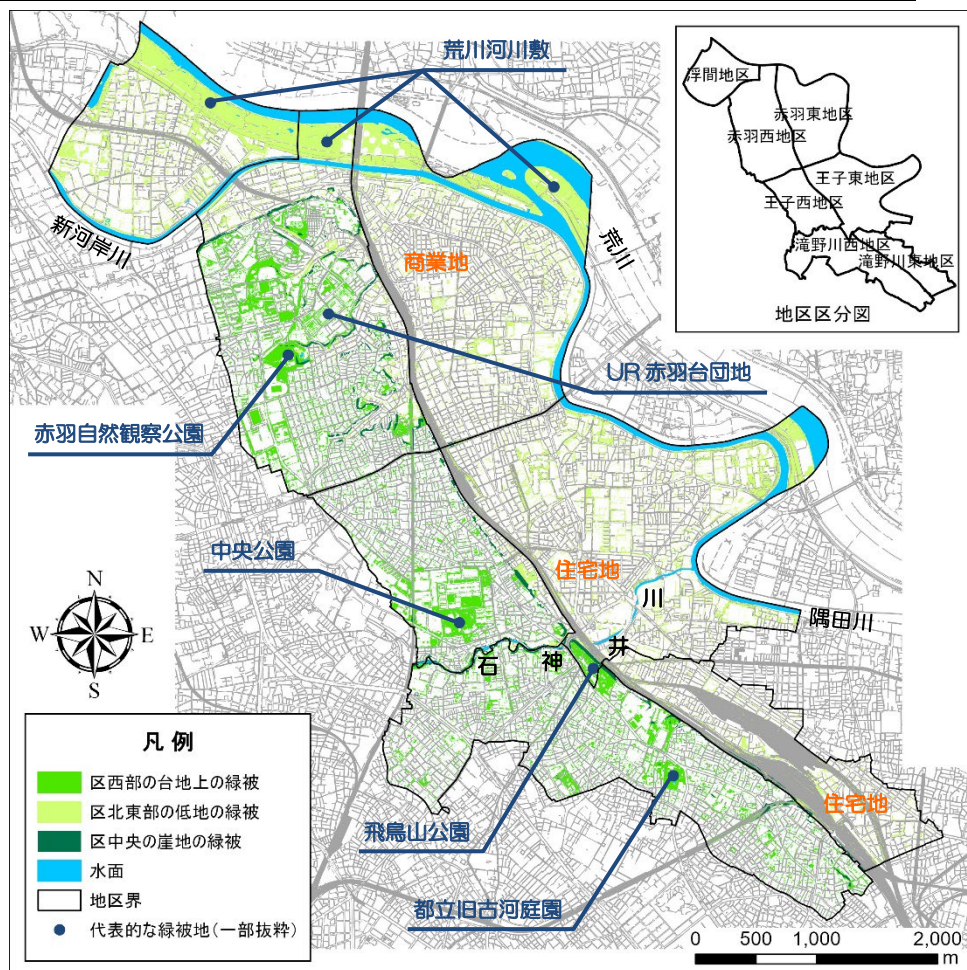
② 緑被地が少ない所

区中央～東部の低地：赤羽駅東側や東十条駅東側、王子駅東側の商業地等

区東部の低地：荒川に面していない豊島周辺の住宅地等

区南部の低地：田端駅から東側の住宅地等

台地上と河川敷は緑被が多く、その中間にある低地部の住宅地は緑被が少ない区域である。



※この地図は、東京都縮尺2,500分の1地形図を利用して作成したものである。(承認番号) (MMT利許第05-117号)

図7.1.1 区全体の緑被分布の状況と代表的な緑地等

(2) 調査項目ごとの推移の総括（平成30年と令和5年の比較）

＜推移の総括＞

① 緑被率調査 18.43%→18.26%（-0.17ポイント）

→樹木被覆地と草地が減少し、河川敷草地で増加がみられた。

② 樹林調査 122.35ha→117.54ha（-4.81ha）

→箇所数は増えているが、面積は減少している。主な要因として、集合住宅などの建て替えに伴う伐採が挙げられる。

③ 屋上緑化調査 9.42ha→9.51ha（+0.09ha）

→面積は増加している。学校施設や集合住宅の建て替えが、増加の主な要因となっている。

④ 大径木調査 4,304本→4,071本（-233本）

→本数は減少しており、伐採、建設行為、植え替えが大きく影響している。

⑤ 生け垣調査 427箇所→466箇所（+39箇所）

→前回調査同様、箇所数および総延長が最も多いのは集合住宅であった。

⑥ 壁面緑化調査 73箇所→75箇所（+2箇所）

→箇所数は増加しているが、総面積は減少している。

⑦ 植物種数調査 151科1,034種→165科1,132種（+14科98種）

→全植物種のうち、最も多いのは在来種であった。

(3) 評価および課題

＜①緑被の減少と回復について＞

- 緑被が減少した主な要因は、樹木被覆地および草地の減少であった。
- 樹木被覆地の減少は、集合住宅の建て替え、鉄道用地内の草地の維持管理によるものである。集合住宅については、緑化計画に基づいた植栽等によって将来的な緑の回復が見込まれる。
- 樹林の減少は、集合住宅等の建て替えに伴う一時的なものと考えられる。建て替えに伴う植栽等によって、将来的には緑の回復が見込まれる。
- 屋上緑化面積は増加している。建て替えによって大規模な集合住宅などが増加している現状を踏まえ、今後も引き続き増加を促していくための方策の検討が望ましい。

＜②樹林の減少と回復について＞

- 樹林面積が減少した主な要因は、上記項目の通り、集合住宅等の建て替えである。緑化計画に基づく植栽などが行われると思われるが、樹木の定着と生長には時間を要するため、将来的には回復するものと考えられる。
- 屋外利用地等のその他における小規模な樹林の減少も確認された。敷地規模が小さい場合、植栽は行われたとしても、樹林に至るまでの再整備は行われにくい傾向にあるため、樹林増加につながる都市計画や施策の検討等が望まれる。
- 崖地樹林では、土留め工事等による分断化がみられる。崖地樹林の連続性による緑の回廊（コリドー）としての機能を維持しつつ、中継基地的な樹林の再編も必要となってくる。今後は、崖地樹林の連続性やネットワーク強化によって、生物多様性保全機能を最大限に発揮できるような重要施策等を位置づけた都市計画や施策の検討等が望まれる。
- 樹林が最も多く分布していたのは公園で、今回調査でも樹林面積は増加した。また、大径木の伐採は公園で多く認められたが、これは老朽化した樹木を対象に、適正な維持管理が図られている結果と考えられる。公園は生物多様性の中心的役割を果たしているため、各公園の状況に応じた適正な維持管理を継続していくことが、より良い緑の保全のために重要である。

＜③緑と生物多様性の保全について＞

- 区内には公園や河川敷といった、動植物が生息・生育することができる規模の大きい緑の拠点（コアエリア）がある。また、移動経路となる緑の回廊（コリドー）や、拠点間の連続性を確保するための中間点等にある小規模な緑地をこれからも有効活用できる環境づくりが望まれる。このようなネットワーク利用によって、生物多様性を保全していくことが重要である。
- 区の中央部を南東から北西に走る崖地には、自然度の高い樹林が多く残されている。また、湧水も複数確認されていることから、緑の回廊（コリドー）としての機能を有していると考えられる。そのため、崖地の緑地を保全する都市計画や施策の検討等が望まれる。
- 低地部の住宅地など、緑が少ない地域においても、小規模な公園や街路樹、住宅の庭木、生け垣および屋上緑化等によって緑が分布している。これらの緑は、鳥類や昆虫類の移動経路、中継基地的な役割を果たすことから、積極的に保全していくことが重要である。
- 区内には、様々な種の大径木を含む樹林がある。古くから存在する樹林は、新たに植栽された人工林に比べて生物多様性が高いため、今後も保全していくことが重要である。
- 植物種数調査の結果、重要種は台地上の平坦部に分布する学校や公園、集合住宅等の緑地や河川敷等で多く生育している。一方、河川敷等では特定外来生物も確認された。今後、緑の質的向上を図るため、外来種の分布拡大や定着を防止しつつ、在来種を増やしていく施策等の検討が望まれる。

＜④緑の基本計画において期待される将来像＞

- 北区緑の基本計画2020では『ひといきいき みどりいきいき 育てる つながる北区』をキャッチフレーズとして、区民・事業者・区の参加と協力のもと、さまざまな機能を有する緑を保全・創出することにより、より豊かな自然と快適な都市環境を次世代に引き継ぐための方針を定めている。

“「緑づくりの基本理念」を実現するための6つの「基本方針」”

方針1. ＜地球環境保全＞人と地球にやさしい緑づくり

方針2. ＜生物多様性保全＞生きもののにぎわいのある緑づくり

方針3. ＜レクリエーション＞魅力ある公園やふれあえる緑づくり

方針4. ＜景観形成＞自然・文化を彩る緑づくり

方針5. ＜防災＞安全・安心を高める緑づくり

方針6. ＜コミュニケーション＞参加・協力・学びによる緑づくり

以上の6つの方針にしたがって、区民、事業者、行政が協力した緑づくりを推進している。具体的な目標および達成状況を以下に示した。

緑の基本計画 2020 の達成状況

緑化指標	令和5年度 (今回調査)	中間年次 (令和6年度)	目標年次 (令和11年度)	長期目標
緑被率	18.26%	19.00%	20.00%	30.00%
緑被地面積	376.24ha	391.2ha	411.8ha	617.7ha

7.2 地区カルテ

【浮間地区】

○地区の概況

- 区の北端に位置し、西端は板橋区に、北端は川口市と戸田市に接する。
- 地区面積：208.6ha
- 人口：24,053人（令和5年4月1日現在）

○地勢

- 全域が低地である。
- 荒川と新河岸川に囲まれている。

○土地利用

- 地区南部を中心に大規模工場が集積しており、一部住宅と工場が混在する。
- 区内で唯一、生産緑地地区が残存している。
- 土地区画整理事業により、都市基盤整備が概ね完了している。

○主な公園や緑地

- 荒川河川敷、都立浮間公園、新河岸東公園、浮間一丁目緑地、浮間北公園

○生物の分布状況

- 重要種
コウホネ、ヒツジグサ、ハンゲショウ、ショウブ、ニガカシュウ、シラン、カキツバタ、ミコシガヤ、アワボスゲ、ヒメゴウソ、タコノアシ、クサネム、シロヤマブキ、ジャヤナギ、カワラナデシコ、ヌマトラノオ、ハクチョウゲ、コムラサキ、メハジキ、ミゾコウジュ
- 特定外来生物
アレチウリ、ナガエツルノゲイトウ、オオキンケイギク

○緑の現況

- 荒川河川敷、都立浮間公園、浮間北公園、浮間一丁目緑地および都営住宅周辺の街路樹等、緑地の多い地区となっている。
- 緑被率は28.74%で、7地区中で最も高い。
- 浮間水再生センターには、広大な面積を有する屋上緑化地と新河岸東公園があるため、屋上緑化面積は7地区中で最も広い。
- 団地等の集合住宅の建て替えが行われており、今後の植栽等の整備によって、緑被のさらなる増加が見込まれる。
- 大径木は372本と、他地区と比較するとやや少ない。

○緑の課題

- 工場や集合住宅の建て替えが行われ、植栽等による緑の増加が見込まれる状況にあり、合わせて公園・緑地整備による緑の増加が望まれる。

【浮間地区 緑の現況図】



※この地図は、東京都縮尺2,500分の1地形図を利用して作成したものである。(承認番号) (MMT利許第05-117号)

図7.2.1 浮間地区緑の現況図

【赤羽西地区】

○地区の概況

- 区の北西部に位置し、西端は板橋区に、北端は川口市に接する。
- 地区面積：389.0ha
- 人口：62,291人（令和5年4月1日現在）

○地勢

- 地区北側から東側の一部が低地で、その他は台地である。
- 崖地や斜面等起伏のある地形が多い。
- 北部は新河岸川および荒川に接する。

○土地利用

- 住宅が中心の土地利用で、特に大規模住宅団地が広く分布している。
- 主要幹線道路である環状7号線の沿道は、高度利用が図られている。

○主な公園や緑地

- 赤羽自然観察公園、桐ヶ丘中央公園、赤羽スポーツの森公園、赤羽台さくら並木公園、清水坂公園、赤羽緑道公園、赤羽台けやき公園、星美学園、東洋大学赤羽台キャンパス、赤羽台台地の縁の崖地

○生物の分布状況

- 重要種
ウマノスズクサ、ショウブ、エビモ、ヒルムシロ、シラン、カキツバタ、ホンモンジスゲ、マツモ、トサミズキ、ホザキノフサモ、キハギ、シロヤマブキ、ハンノキ、ハクチョウゲ、コムラサキ、ミツガシワ、フジバカマ、ゴマキ
- 特定外来生物
オオカワヂシャ、オオキンケイギク

○緑の現況

- 赤羽自然観察公園、桐ヶ丘中央公園および赤羽スポーツの森公園等の比較的大きな公園、赤羽台の大規模住宅団地内の植栽、荒川河川敷等が主な緑地となっている。
- 東京北医療センターやUR赤羽台団地等、屋上緑化が多い。
- 単位面積（ha）当たりの樹林面積は7地区中最大であり、緑被率は2位となっている。大規模集合住宅等が多いため植栽が計画的に進められており、生け垣の箇所数と総延長は7地区中最大である。
- 入り組んだ地形のため、崖地樹林の箇所数と面積は7地区中最大である。
- 北区内の樹林の中心的な分布地で、大径木は1,143本と7地区中最も多い。

○緑の課題

- 既存の緑を保全するとともに、集合住宅の建て替えや都市計画事業等と連携した適切な緑地整備が望まれる。
- 南部の住宅地や北部の低地、中部の不燃化特区には緑が少ないため、それぞれの地域の特徴に応じた緑化の推進が望まれる。

【赤羽西地区 緑の現況図】



※この地図は、東京都縮尺2,500分の1地形図を利用して作成したものである。(承認番号) (MMT利許第05-117号)

図7.2.2 赤羽西地区緑の現況図

【赤羽東地区】

○地区の概況

- 区の北東部に位置し、北から北東で川口市に、東で足立区に接する。
- 地区面積：373.7ha
- 人口：56,753人（令和5年4月1日現在）

○地勢

- 全域が低地である。
- 東部から北東部にかけて荒川および隅田川に接する。

○土地利用

- 住宅、商業施設および工場等が混在する複合市街地である。
- 京浜東北線や東北本線、埼京線、東北・上越・北陸新幹線といった鉄道が多く通る交通結節点であり、赤羽駅周辺は区内最大の商業地となっている。
- 隅田川沿いを中心に、比較的大規模な工場が立地している。
- 環状7号線や東本通り等の沿道は、高度利用が図られている。

○主な公園や緑地

- 荒川河川敷（新荒川大橋緑地、荒川岩淵関緑地等）、北運動公園、赤羽公園

○生物の分布状況

- 重要種
ジュンサイ、コウホネ、ヒツジグサ、ハンゲショウ、トチカガミ、エビモ、ササバモ、ニガカシュウ、ミクリ、ウキヤガラ、ヤガミスゲ、ミコシガヤ、コツブヌマハリイ、タコノアシ、クサネム、ハンノキ、ゴキツル、ジャヤナギ、シロネ、ミゾコウジュ、アサザ
- 特定外来生物
オオフサモ、アレチウリ、ナガエツルノゲイトウ、オオキンケイギク、ミズヒマワリ

○緑の現況

- 北部の荒川河川敷が緑地の大半を占めている。
- 南部では赤羽公園や北運動公園の緑が主な緑地となっている。
- 緑被率は区平均よりやや低い。
- 壁面緑化は箇所数と面積が7地区中最大であり、生け垣の箇所数は2位となっている。
- 大径木の本数は290本と、比較的少ない。

○緑の課題

- 赤羽駅から東側には、商業施設が集積しており、緑被率が5%未満の地域が存在する。その他、志茂駅周辺の木造住宅密集地域も緑が少ない。これらの地域では、公園・緑地整備に努めるとともに、木造住宅密集地域でも設置可能な生け垣や壁面緑化等、民有地の緑化の推進が望まれる。

【赤羽東地区 緑の現況図】



※この地図は、東京都縮尺2,500分の1地形図を利用して作成したものである。(承認番号) (MMT利許第05-117号)

図7.2.3 赤羽東地区緑の現況図

【王子西地区】

○地区の概況

- 区の中央西部に位置し、西端で板橋区に接する。
- 地区面積：197.3ha
- 人口：31,823人（令和5年4月1日現在）

○地勢

- 岸町の一部を除き、台地上に位置する。
- 南端で石神井川に接する。

○土地利用

- 北部は、住宅およびそれに近接する商店街が多い。
- 南部は、陸上自衛隊十条駐屯地や大学等の大規模施設が集積している。
- 一部で道路等の都市基盤整備が遅れているが、複数の都市基盤整備計画による道路整備等が予定されている地区である。
- 十条駅付近は、木造住宅の密集地域で公園等の開放空間が不足している。

○主な公園や緑地

- 中央公園、名主の滝公園、王子神社、石神井川沿いの緑地（音無親水公園等）、東京家政大学、十条駐屯地

○生物の分布状況

- 重要種
イヌカタヒバ、コモチシダ、ヒカゲワラビ、アスカイノデ、シノブ、ヒトツバ、イチイ、ヒツジグサ、オオバウマノスズクサ、シデコブシ、タイワンホトトギス、シラン、ギンラン、キンラン、クゲヌマラン、テクリスゲ、シロバナハンショウツル、トサミズキ、ヤマネコノメソウ、ミセバヤ、トキホコリ、シロヤマブキ、ハクチョウゲ、キキョウ
- 特定外来生物
オオキンケイギク

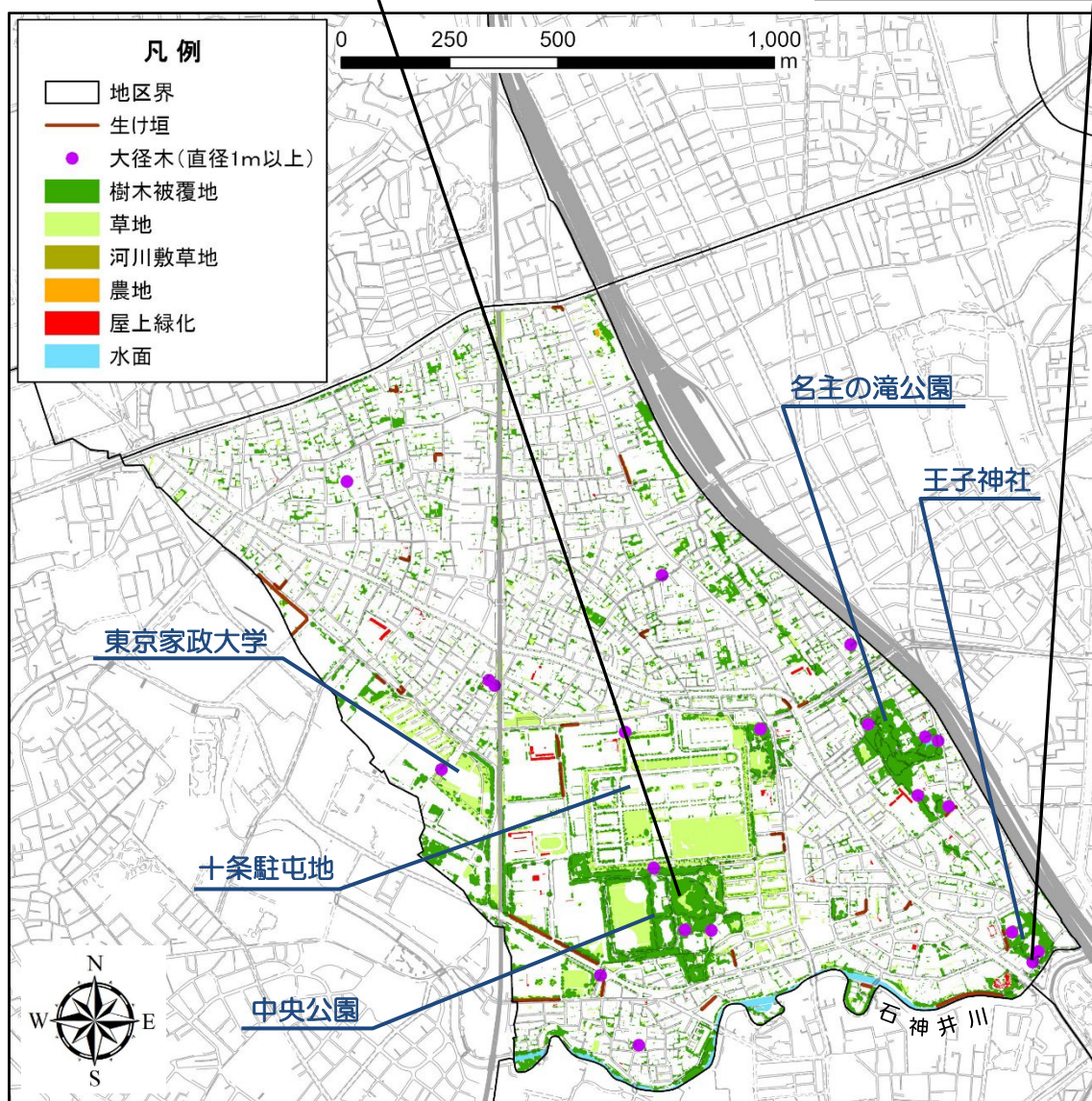
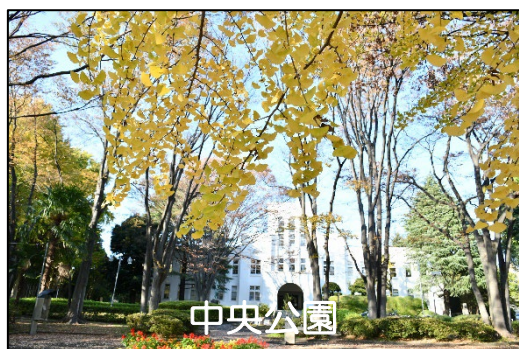
○緑の現況

- 中央公園、名主の滝公園および王子神社には比較的広い面積の樹林が存在し、また、十条駐屯地や各種学校には比較的広い面積の芝生等が存在している。
- 石神井川沿いには、緑地が線状に分布している。
- 地区北部の十条駅周辺等の住宅密集地では、緑被は少なく、生け垣の箇所数も少ない。
- 地区の南部に中央公園や名主の滝公園等の大規模な緑被地が集中する一方、北部は緑被率が比較的低くっており、緑被の偏りが大きい。
- 大径木は843本と比較的多く、7地区中3位である。

○緑の課題

- 北部の不燃化特区周辺については、十条野鳥の森緑地等、既存の公園・緑地を維持、充実化を図りながら、住宅密集地でも設置可能な生け垣や屋上緑化、壁面緑化等の整備を推進し、緑を創出することが望まれる。

【王子西地区 緑の現況図】



※この地図は、東京都縮尺2,500分の1地形図を利用して作成したものである。(承認番号) (MMT利許第05-117号)

図7.2.4 王子西地区緑の現況図

【王子東地区】

○地区の概況

- 区の中央東部に位置し、北から東で足立区に、南東で荒川区に接する。
- 地区面積：399.2ha
- 人口：82,407人（令和5年4月1日現在）

○地勢

- 全域が低地である。
- 東端で隅田川に接する。

○土地利用

- 住宅、商業施設および工場等が混在する複合市街地である。
- 大規模な住宅団地や工場が比較的多い。
- 地区の西部は土地区画整理事業により、都市基盤の整備が進んでいる。
- 環状7号線や北本通り等の沿道は、高度利用が図られている。

○主な公園や緑地

- 荒川・隅田川河川敷、飛鳥山公園（西側）、東豊島公園、神谷堀公園、豊島馬場遺跡公園、UR王子五丁目団地内公園、あすか緑地

○生物の分布状況

- 重要種
トキワトラノオ、フモトシケシダ、ニガカシュウ、タイワンホトトギス、シラン、アヤメ、ミコシガヤ、アオガヤツリ、コアゼテンツキ、クロテンツキ、トサミズキ、ハルニシ、コケミズ、シロヤマブキ、ハンノキ、ジャヤナギ、カワヂシャ、コムラサキ、ミゾコウジュ、オミナエシ
- 特定外来生物
アレチウリ、オオキンケイギク

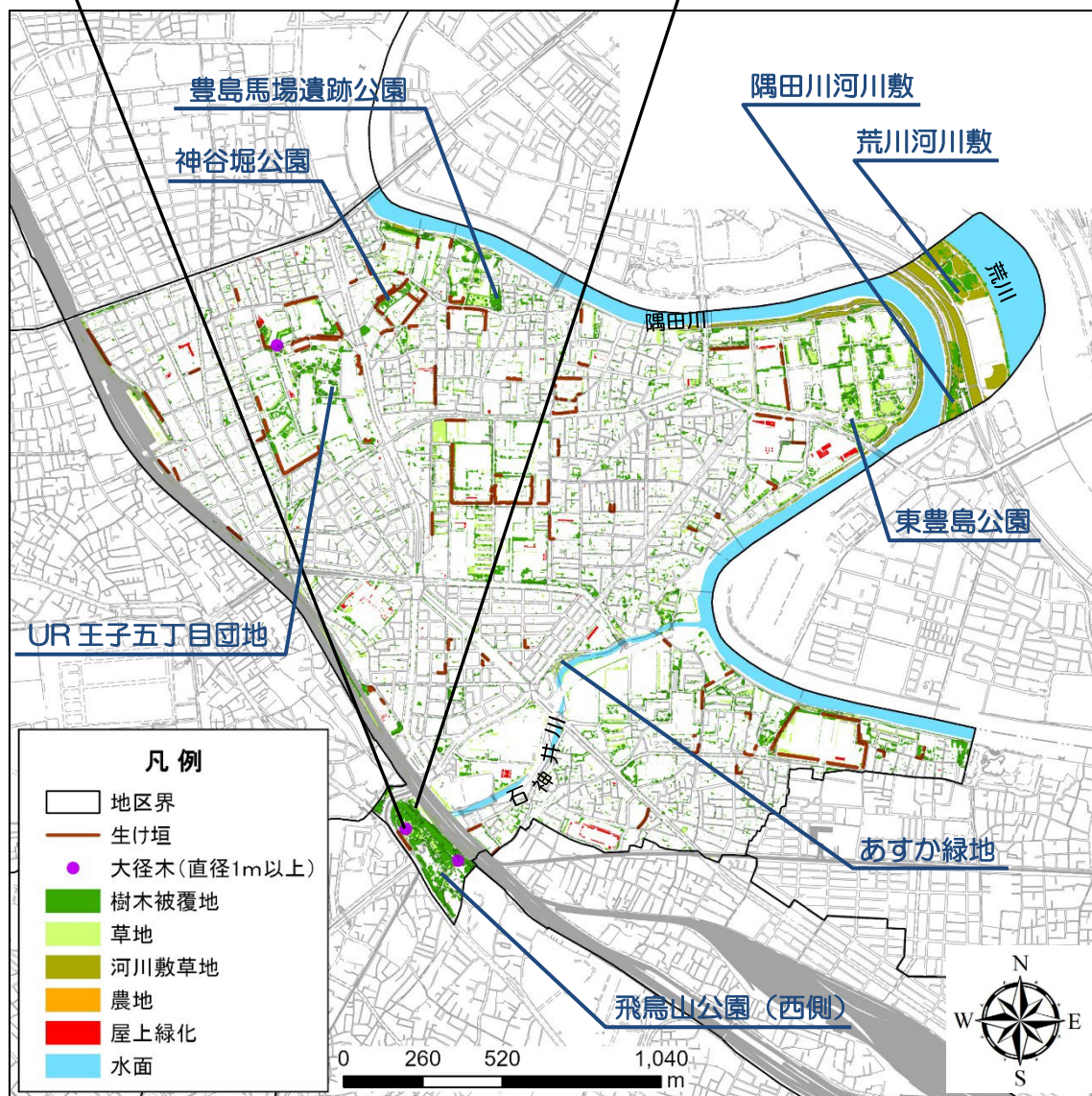
○緑の現況

- 荒川・隅田川河川敷、飛鳥山公園（西側）、東豊島公園、神谷堀公園、UR都市機構の住宅団地および各種学校等が主な緑地である。
- 集合住宅敷地内の樹木の生長や公園周辺への新たな植栽により、緑の増加がみられる。
- 緑被率は区平均より低い。
- 大径木は399本であり、7地区中4位となっている。

○緑の課題

- 南部の住宅密集地等の緑の少ない地域では、都市計画事業と連携した公園や緑地の整備が望ましい。
- 公共施設集積地や住宅密集地では、生け垣、屋上緑化、街路樹および壁面緑化等の整備を推進し、良好な住環境の創出が望まれる。

【王子東地区 緑の現況図】



※この地図は、東京都縮尺2,500分の1地形図を利用して作成したものである。(承認番号) (MMT利許第05-117号)

図7.2.5 王子東地区緑の現況図

【滝野川西地区】

○地区の概況

- 区の南西部に位置し、西で板橋区と豊島区に、南で文京区と荒川区に接する。
- 地区面積：339.6ha
- 人口：75,616人（令和5年4月1日現在）

○地勢

- 全域が台地上に位置する。
- 北端で石神井川に接する。

○土地利用

- 住宅と近接する商店街が中心となっている。
- 飛鳥山公園（東側）、都立旧古河庭園、寺社等の歴史的・文化的資源が比較的多い。
- 駒込駅周辺等、一部の区域を除いて、都市基盤整備の対象となっている。
- 中山道と明治通りの沿道は、高度利用が図られている。

○主な公園や緑地

- 飛鳥山公園（東側）、都立旧古河庭園、滝野川公園、西ヶ原みんなの公園、醸造試験所跡地公園、石神井川沿いの緑地（音無けやき緑地等）、平塚神社

○生物の分布状況

- 重要種
マツサカシダ、ホソバナライシダ、アスカイノデ、シノブ、ニッケイ、
タイワンホトトギス、シラン、ギンラン、キンラン、アヤメ、ゼンテイ
カ、ホンモンジスゲ、レンゲショウマ、トサミズキ、コケミズ、アイナ
エ、コムラサキ、キキョウ、ノニガナ
- 特定外来生物
確認なし

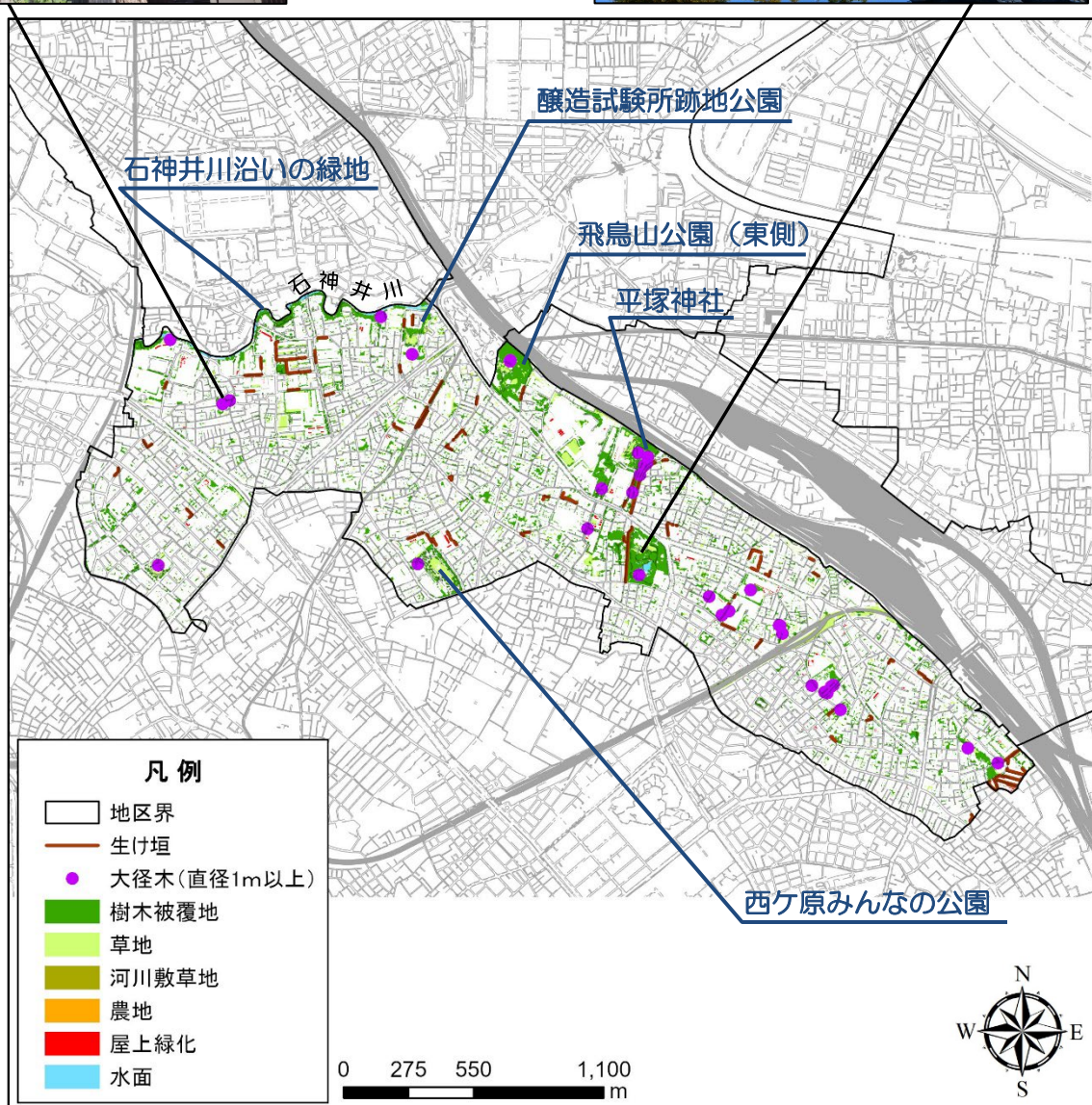
○緑の現況

- 飛鳥山公園（東側）、滝野川公園および平塚神社等には崖地のまとまった樹林がある。
- 緑被率は区平均値よりやや低く、7地区中5位である。
- 大規模な緑地がある一方で、地区南部の住宅密集地や商店街付近では緑被、生け垣ともに少ない状況である。
- 大径木は978本であり、7地区中2位である。

○緑の課題

- 緑の少ない地域については、都市計画事業と連携して公園・緑地を確保することが望ましい。また、住宅密集地では設置可能な生け垣や屋上緑化、壁面緑化等の整備を推進し、緑の創出が望まれる。

【滝野川西地区 緑の現況図】



※この地図は、東京都縮尺2,500分の1地形図を利用して作成したものである。(承認番号) (MMT利許第05-117号)

図7.2.6 滝野川西地区緑の現況図

【滝野川東地区】

○地区の概況

- 区の南東部に位置し、荒川区に接する。
- 地区面積：151.6ha
- 人口：22,227人（令和5年4月1日現在）

○地勢

- 全域が低地である。

○土地利用

- 鉄道の操車場が広範囲を占めている。
- 住宅や商店街、工場等が混在する複合市街地となっている。
- 区内でも、公園面積の少ない地区となっている。

○主な公園や緑地

- 東田端公園、中里貝塚史跡広場、鉄道神社、尾久車両センター（草地）、都電荒川線の植栽

○生物の分布状況

- 重要種
イヌカタヒバ、シノブ、シラン、ミセバヤ、シロヤマブキ、コムラサキ
- 特定外来生物
確認なし

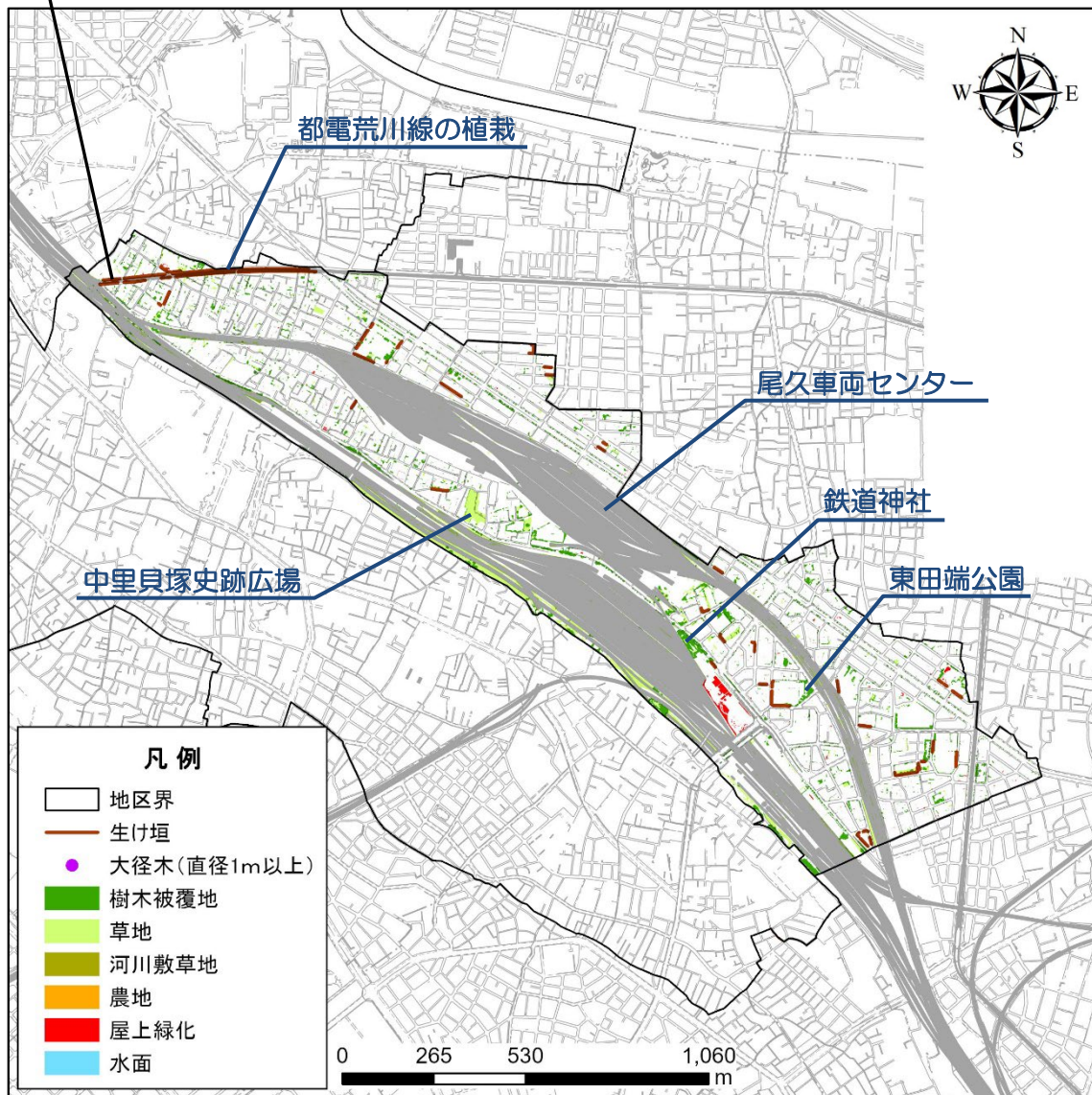
○緑の状況

- 東田端公園や中里貝塚史跡広場の緑が主な緑地となっている。
- 尾久車両センターが地区内の大部分を占めるため、緑被率が7地区中最も低く、緑が不足している地区である。
- 緑被の状況に比例して大径木も46本と、7地区中最も少ない。

○緑の課題

- 全町丁目において緑被率は10%未満となっているため、地区内の公園・緑地の整備・充実を図るとともに、事業所や住宅地においては、生け垣や屋上緑化等の身近な緑化の推進を図ることが望ましい。
- 樹林地が特に少ないため、公園等を整備する際には努めて樹木を植栽することが望ましい。

【滝野川東地区 緑の概況図】



※この地図は、東京都縮尺2,500分の1地形図を利用して作成したものである。(承認番号) (MMT利許第05-117号)

図7.2.7 滝野川東地区緑の現況図

空 白